

鹿子木員信 哲学者。大アジア主義の思想家。国民への思想教育に関わり、ナチスドイツの招聘で皇学の講義もした。

かのこぎかずのぶ

秩父事件・1884 = 甲府で、旧熊本藩士鹿子木才七の三男に生まれる。

帝国憲法発布1889 = 5歳 :

郡司千島探検1893 = 9歳 :

日清戦争始・1894 = 10歳 :

教科書疑獄・1902 = 18歳 :

東京府立一中を経て、

日露戦争始・1904 = 20歳 : 海軍機関学校卒業。日露戦争に出征して日本海海戦に従軍するが、

日露戦争終・1905 = 21歳 :

満鉄発足・1906 = 22歳 : 中尉で退役し、京都帝国大学文学部哲学科選科に入学、

韓国反日暴動1907 = 23歳 : 欧米に留学し、
ユニオン神学校を経て、

韓国併合・1910 = 26歳 : コロンビア大学でM.A.を取得し、

大逆事件判決1911 = 27歳 :

明治天皇没・1912 = 28歳 : イエナ大学よりドクトルの称号を得て、

大正政変・1913 = 29歳 : 帰国。同志社大学教授を経て、

第一次大戦始1914 = 30歳 : 慶応義塾の教授になると、アジアの諸民族、ことにインドと中国の西欧諸列強への隷従の状態に関心を持ち、アジアが更生して独立の運動を起すべしとする大アジア主義の思想運動を推進するようになる。

第1次世界大戦による思想的動揺期を背景に、

本格政党内閣1918 = 34歳 : 左右の知識人を広く網羅した懇談会(老壮会)が生まれると、その常連となり、退職して、インドを訪問、

△ 勝江条約・1919 = 35歳 : 英国官憲に拘留されて追放され、帰国。北一輝・大川周明を中心として成立した(猶存社)に参加。

大暴落・1920 = 36歳 : 国学院大学と曹洞宗大学の哲学講師を嘱託される。

原敬暗殺暗殺1921 = 37歳 : 文学博士となり、東京帝国大学文学部哲学科講師も嘱託される。

水平社結成・1922 = 38歳 : みずから目撃したインド独立運動の状態を、「ガンヂと真理の把持」として公表。

関東大震災・1923 = 39歳 : (猶存社)が解散となったことを契機に、哲学研究のため欧州各国に留学、

円本時代始・1926 = 42歳 : 帰国し、九州帝国大学法文学部教授に就任。

金融恐慌・1927 = 43歳 : ベルリン大学に招かれ、日本学の講座を担当。

世界恐慌・1929 = 45歳 : 帰国。

満州事変・1931 = 47歳 :

五一五事件・1932 = 48歳 : *下中弥三郎を総務委員長とする新日本国民同盟が結成されると顧問として加わり、下中・中谷武世らこの同盟の主脳が同人となっている月刊(国民思想)に筆を執り、

国際連盟脱退1933 = 49歳 : '全亜細亞諸民族を打って一丸とする亜細亞連盟の実現'を目的として、陸軍中将松井石根・貴族院副議長近衛文麿・前ソ連駐劄大使広田弘毅などを中心とする大亜細亞協会が発足すると、その理事となる。

帝人疑獄事件1934 = 50歳 : 「日本精神の哲学」、

日中戦争始・1937 = 53歳 : 日中戦争が勃発すると、司令部付きになって、雑誌(大亜細亞主義)((国民思想)の後身)に、「対支思想作戦~三民主義爆破~」を載せて、国民党政府建国の精神たる三民主義を相手に思想戦を用意するよう説いた。

健保+総動員 1938 = 54歳 : 「すめらあじあ」、

第二次大戦始1939 = 55歳 : 自ら九大を退官し、

大政翼賛会・1940 = 56歳 : 欧州を視察、

日米開戦・1941 = 57歳 : 「皇国学大綱」。ナチス=ドイツに招かれて、「皇学」を講じ、

・1942 = 58歳 : 大日本言論報国会が結成されると、

創価学会検挙1943 = 59歳 : 専務理事兼事務局長に就任。

敗戦・1945 = 61歳 : 敗戦後、A級戦犯に指定され、

新憲法施行・1947 = 63歳 : 釈放されるも、

極東裁判決・1948 = 64歳 : 公職追放となって、

三大事件・1949 = 65歳 : 没した。
妻コルネリアはドイツ人。